

科目ナンバリング		G-LAS10 80023 LB34			
授業科目名 <英訳>	人新世の人文学 Humanities in the Anthropocene			担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 特定准教授 篠原 雅武
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	人文社会科学系	使用言語 日本語及び英語
旧群		単位数 2単位	週コマ数 1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・後期	曜時限	木3	配当学年	大学院生 対象学生 全学向
（総合生存学館の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）					
[授業の概要・目的]					
インド出身の作家アミタヴ・ゴーシュは「気候変動の危機は文化の危機であり、想像力の危機である」と述べたのだが、彼のいう危機のなかには当然のことながら人文学の危機もまた含まれる。危機とは、広い意味での思考の危機、言語の危機、人間の危機とも言えるが、それはすなわち、高温や早魃や集中豪雨や海面上昇といった事態を前にして人間の新たな思考、可能性が試されている、ということである。 人間がこの状況においてなおも生きていくには、この状況に関する新しい思考、感じ方、論じ方が求められることになるだろう。そのためには、この状況の理解の妨げになる古い思考、古い感受性から逃れ、別の仕方世界を感じ、思考することが求められる。この授業では、気候変動という事実が、そこで生きている人間にとって意味することが何であるかを考え、そこで求められることになる人間の存在の仕方についてがどのようなものであるかを想像力を駆使して考えることの訓練を行う。具体的には、人文学の基本としての「読むこと」「考えること」「議論すること」「書くこと」の訓練であるが、それはまた、新聞やテレビや書籍において流布されている誤情報から身を守りつつネットで流れる陰謀論に陥らないための訓練ともいえる。具体的には、人新世の人文学における重要なテキストのうちのいくつかを選び、精読しつつ授業を行う。					
[到達目標]					
・人新世（人間活動を起因とする気候変動を特徴とする）においてなおも人文学をすることに意味があるとしたらそれは何故であるか理解すること。 ・人新世の人文学において先駆的業績とされる文献を精読することを通じて、未来の人文学の構想のための基本的アイデアに触れ、のみならず自分で理解すること。 ・人新世・気候変動に関して流布する情報の真偽を確かめるための基準を自分のなかに確立し、現実には起きている世界の変化の只中において今後生きていくための指針を見出していくこと。					
[授業計画と内容]					
1．ガイダンス・「気候変動が想像力の危機である」ということの意味について考える（第1週） 2．人新世におけるリアリティ、思考、感じることに関する人文学的諸問題（第2週～第5週） （ティモシー・モートンの議論を読解する。） 3．人新世における時空間の問題、そこでの生存可能性（habitability）への問い（第6週～第9週） （ディペッシュ・チャクラバルティの議論を読解する） 4．人新世の人文学の可能性（第10週～第14週） （モートン、チャクラバルティ以外の議論の紹介。） 5．ふりかえり（第15週）					
-----人新世の人文学(2)へ続く↓↓↓					

人新世の人文文学(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への出席と授業レポートを参考にして総合的に判断します。

[教科書]

授業中に指示する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布した文献をしっかりと読んでおくこと。わからないことがあったら質問事項をまとめておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]